

第1回 城陽市東部丘陵地整備推進協議会の結果概要について

◆日時：平成28年6月6日（月曜）16時から16時45分まで

◆場所：京都府庁1号館3階会議室

◆出席者：

（京都府）山下副知事、本田企画理事、岡本山城広域振興局長、藤森建設交通部技監、平井商工労働観光部ものづくり産業政策監

（城陽市）奥田市長、有川副市長、木谷まちづくり活性部長、岡本まちづくり活性部参事

（参画団体）森本城陽商工会議所会頭、小林城陽山砂利採取地整備公社常務理事、桧原近畿砂利協同組合理事長

アドバイザー（学識経験者）村橋城陽市東部丘陵地整備委員会委員長、中川城陽市都市計画審議会会長、

オブザーバー（参画機関）馬渡国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所長、西岡西日本高速道路株式会社関西支社新名神京都事務所長

◆概要

1 協議事項

(1) 城陽市東部丘陵地整備推進協議会規約(案)について

○別紙「城陽市東部丘陵地整備推進協議会規約(案)について」を京都府から説明。第3条に規定する構成員に城陽商工会議所を追加する修正意見があり、修正後の規約案を全会一致で了承。

※修正後規約は別紙のとおり

(2) 城陽市東部丘陵地の現状と課題について

○別紙資料、「城陽市東部丘陵地整備計画」及び城陽市東部丘陵地まちづくり条例（骨子）により城陽市から説明。

・今後、条例や計画に基づき、無秩序な開発を防止し、計画的で適正な修復整備をしっかりと進め、府南部地域の発展につながるまちづくりを進めたい。

○意見交換

・新名神沿線では開発が盛んになって競争下であり、当地域のアクセスのよさや広大な面積などのメリットを最大限に生かすためにも、広域かつ長期的に情報発信する仕組みを構築いただきたい。

・切土・盛土等の情報を企業にしっかりと説明していくことが大事で、どういった対策ができるのか、防災上の安全・安心な開発を行っていく上でもしっかりと高めていく必要がある。

・業界の業務のソフトランディングを精力的に検討し前向きに取り組みたいので、アドバイスをお願いする。

・山城地域全体の振興のため、企業誘致にも積極的に取り組みたい。

・当地域は広大で可能性も高く、市では全国的にも稀な厳しい条例を制定されたところであり、保安林、再生土、環境等多くの課題についても今後しっかりとグリップしていただけるものと期待している。

・まちづくり条例では環境面についてもしっかりと規定しており、適正で計画的な開発の下、環境にも十分配慮した整備を進め、負の歴史をプラスのイメージに塗り替えたい。

・新名神の整備が進む中で、企業誘致に向けてインフラ整備が決め手となる。平成27年度にスマートインターチェンジと宇治木津線そろっての調査費も国で予算化されたので積極的に進めたい。

・みんなが共通の夢をもって進められるよう、地位住民のニーズをしっかりと把握していただきたい。

(2) 今後の進め方について

(京都府から提案)

・ 当地域の開発には様々な課題を検討していく必要があり、各課題の解決に向けて、規約にあるプロジェクト会議で地に足をつけて議論し積み上げていくことが必要。

(城陽市から発言)

・ テーマごとのプロジェクト会議で協議を積み上げることが重要で、協議会の下で、京都府、国、商工会議所、地権者、NEXCOによる課題ごとの会議の中で情報共有し、しっかり取り組みたい。

(京都府と城陽市が合意)

・ 課題ごとに協議会の部会として会議を開催して情報を共有し、着実に取り組む。